

2023年3月期 決算説明会

2023年5月23日

TDCソフト株式会社

- 1 2023年3月期 決算概況（連結）
- 2 2023年3月期 主要施策の状況
- 3 2024年3月期 見通しについて

代表取締役社長 小林 裕嘉

- 4 2023年3月期 決算内容
管理本部担当取締役執行役員 大垣 剛

2023年3月期の実績

- 売上高は前期比14.0%増の352億円、営業利益は前期比16.6%増の34.5億円で着地。
- 2024年3月期の立ち上がりの状況も、引き続き各事業分野の受注環境は堅調

トピックス

- **事業面は全ての分野が堅調に推移**

高成長を続けるITコンサルティング&サービス分野を筆頭に、全ての事業分野が堅調に推移し、前年実績から拡大

- **将来に向けた積極的な投資施策を推進**

堅調な事業運営状況を鑑み、期初計画以上に事業領域拡大や人材の確保・育成に向けた投資施策を積極的に推進



2023年3月期 決算概況（連結）

(単位：百万円)	2023年3月期	利益率	前年同期比	2022年3月期
売上高	35,242	-	+14.0%	30,925
売上総利益	7,479	21.2%	+16.4%	6,423
営業利益	3,458	9.8%	+16.6%	2,967
経常利益	3,714	10.5%	+20.5%	3,082
当期純利益	2,490	7.1%	+20.4%	2,069

【ハイライト】

- 当期はDXを背景とした戦略的なIT投資需要が活発に推移し、期初より全ての事業分野が堅調に推移
- 高付加価値SIサービスも順調に拡大しており、収益性も向上
- 堅調な事業運営状況を鑑み将来の更なる事業拡大に向けた投資を積極的に推進

ITコンサルティング&サービス分野



お客様のDX推進に向けたIT戦略・システム化構想の立案、技術コンサルティング、教育サービス、自社クラウドアプリ、BI/DWH、ERP、CRMなどのソリューションサービスを提供

SaaS、iPaaS等のクラウド系ソリューションにおいて、収益性の高いプライム案件を拡大。

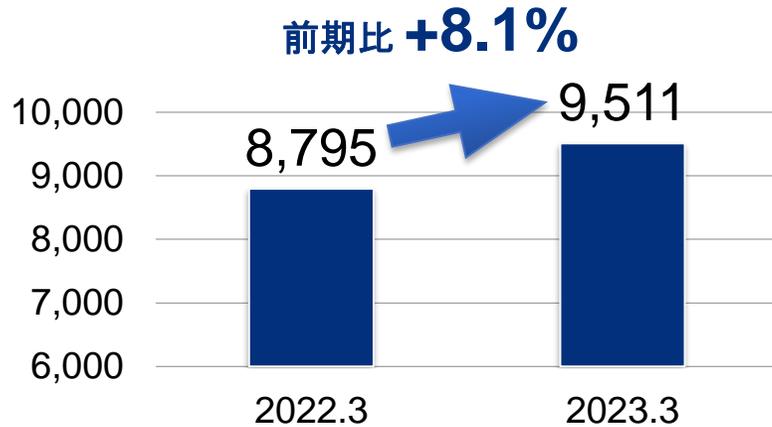
金融ITソリューション分野



金融業向けにシステム化構想・設計・開発・保守などの統合的なITソリューションを提供

**クレジット関連の大規模案件が牽引
クラウド化やモダナイゼーション需要が活況に推移**

公共法人ITソリューション分野



流通業、製造業、サービス業、公共向けにシステム化構想・設計・開発・保守などの統合的なITソリューションを提供

運輸業、自動車・鉄鋼等の製造業向けの開発案件が牽引
また、セキュリティサービスのクロスセルによる提供実績が拡大

プラットフォームソリューション分野



ITインフラの環境設計、構築、運用支援、ネットワーク製品開発、ネットワークインテグレーション等を提供

クラウド関連のインフラ構築案件が堅調に推移



2023年3月期 主要施策の状況

既存のSI事業領域を軸に新たな領域へ事業を拡大
新たなビジネスモデルに必要なケイパビリティを獲得し、
新たな次世代型SI企業を目指す

Plus!
事業領域の拡大

社会や顧客の潜在ニーズを捉え、最新の要素技術等を活用した付加価値の高いインテグレーションサービスの拡大

高付加価値
SIサービスの追求

主要戦略

高生産性と高品質を両立するSIプロセスの整備などをイノベーション的アプローチで実現

SIモデル変革
の推進

次世代型SI事業の全体概況について

次世代型SI事業は順調に拡大

アジャイル開発やクラウド分野が牽引し、
売上高構成比24.5%に拡大

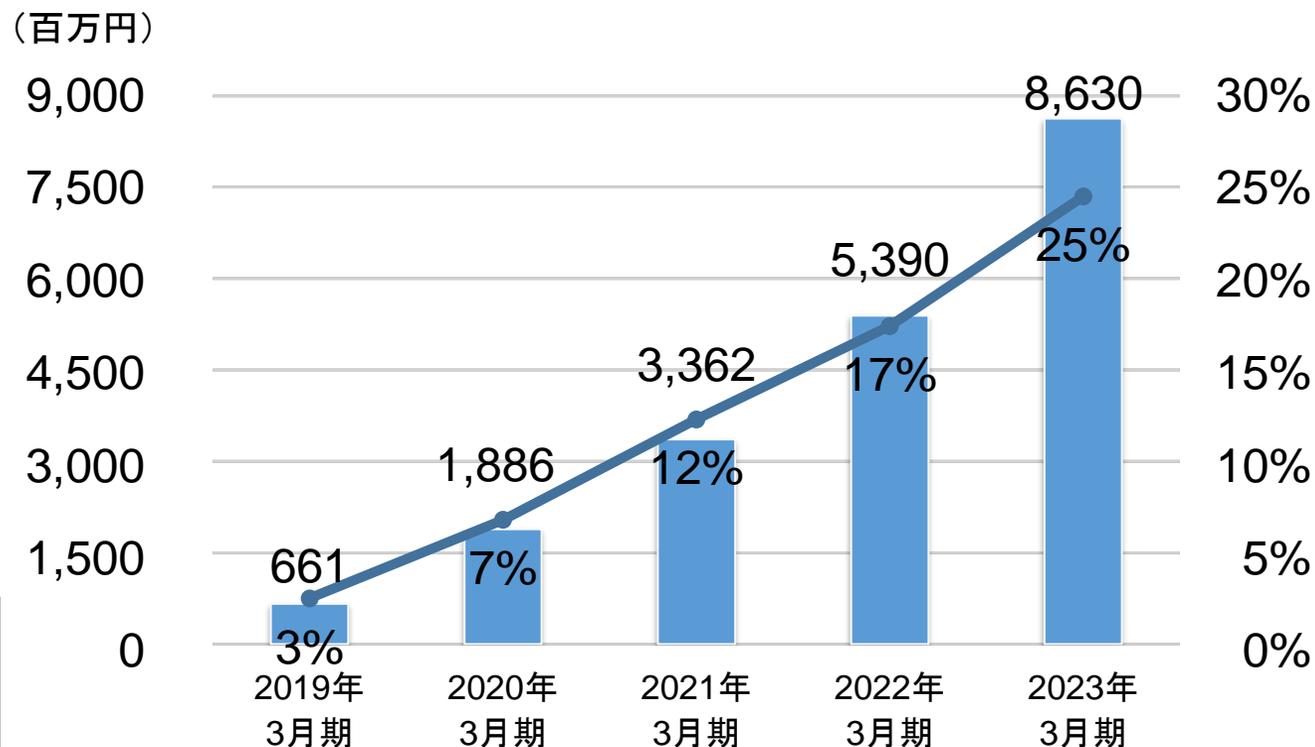
当該事業の拡大、売上構成比の向上が
大きく寄与し、連結業績における収益
性が向上

売上総利益率 21.2%（前年同期比+0.4%）

次世代型SI事業

顧客の潜在ニーズを捉え、アジャイル、セキュリティ等の最新の要素技術等を活用し、高付加価値サービスの提供と時間や手間などを含めたユーザコストの低減を両立したインテグレーションサービス

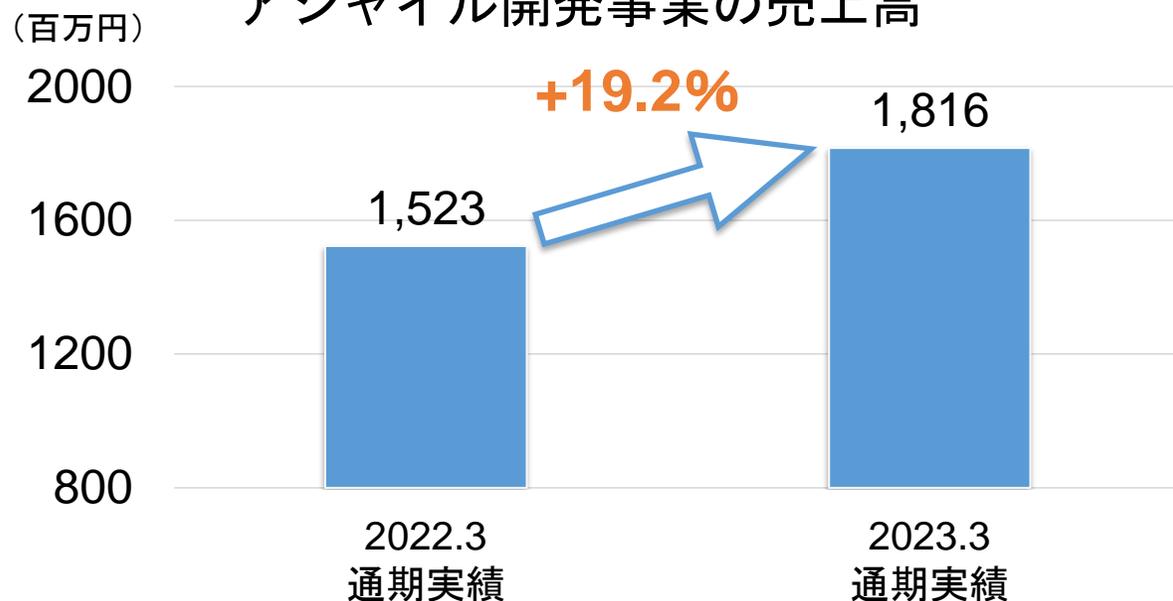
次世代型SI事業の売上高比率および売上高推移



アジャイル開発事業

技術者の確保、育成を推進し、
売上拡大を維持

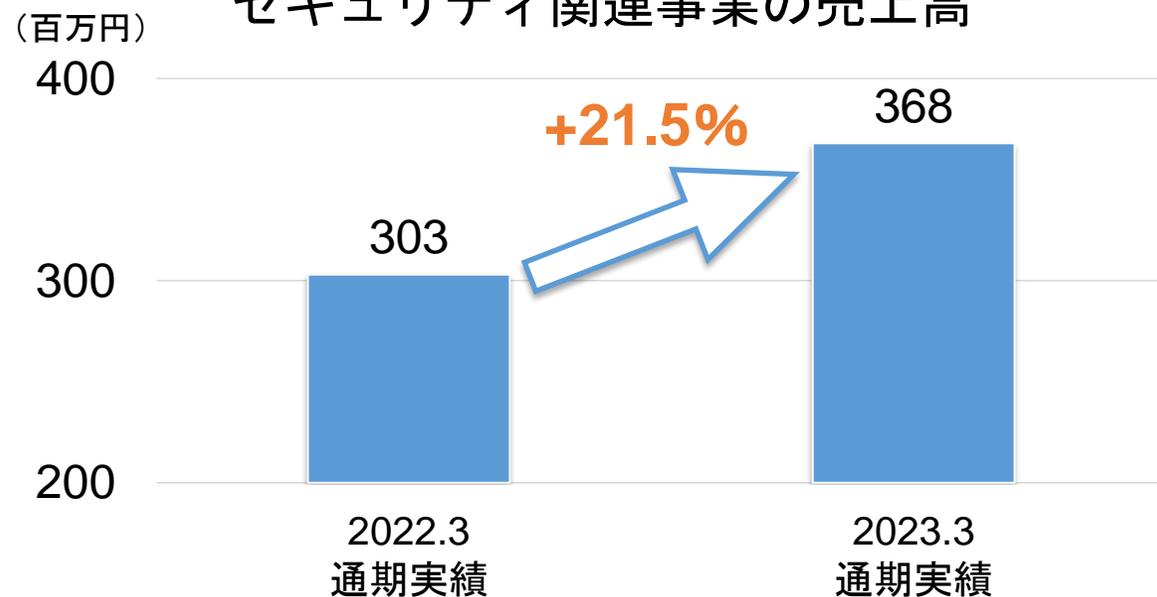
アジャイル開発事業の売上高



セキュリティ関連事業

既存顧客へのクロスセルにより
セキュリティサービスの提供実績が拡大

セキュリティ関連事業の売上高



トラブルプロジェクトの撲滅

プロジェクトパフォーマンス評価を可視化するシステム導入に取り組む等、
更なる効率化を目指す

プロジェクトパフォーマンス評価

プロジェクト推進に必要なスキル要素と体制（要員構成）を可視化しプロジェクトのパフォーマンス評価を可能にする



※イメージ画像

ワークプレイス戦略の推進

次世代型SI企業を目指したワークプレイス戦略『Smart Work構想』を取りまとめる



開発拠点「TechnoGrowth Center」としてより意欲的に仕事に取り組める環境整備



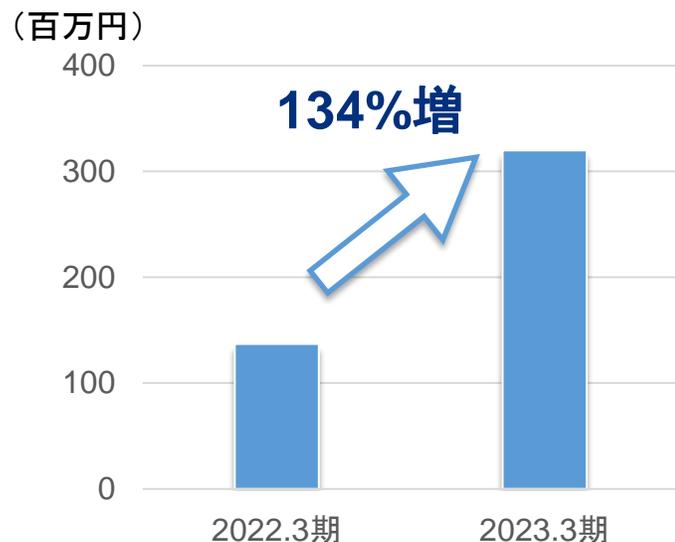
生産性や技術者のエンゲージメント向上を目指す

既存のSI事業領域を軸に新たなビジネスモデルに必要なケイパビリティを獲得し、新たな領域へ事業を拡大

Target事業①

コンサルティング事業

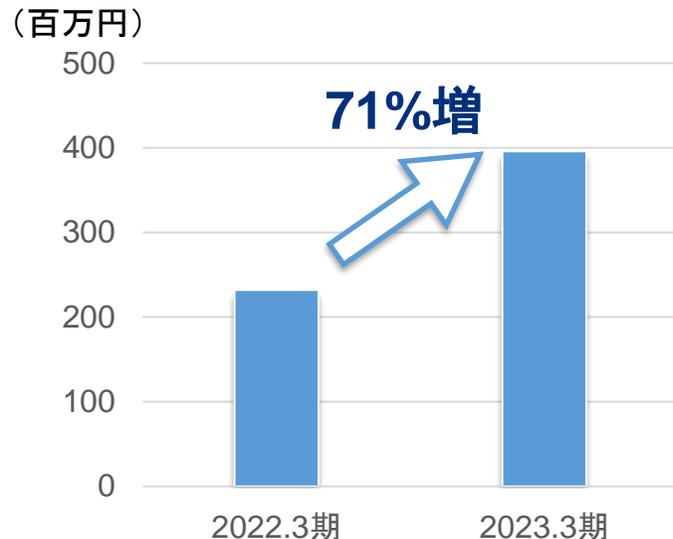
DX/ITコンサル、ソリューション導入コンサルや教育サービス



Target事業②

サービス販売事業

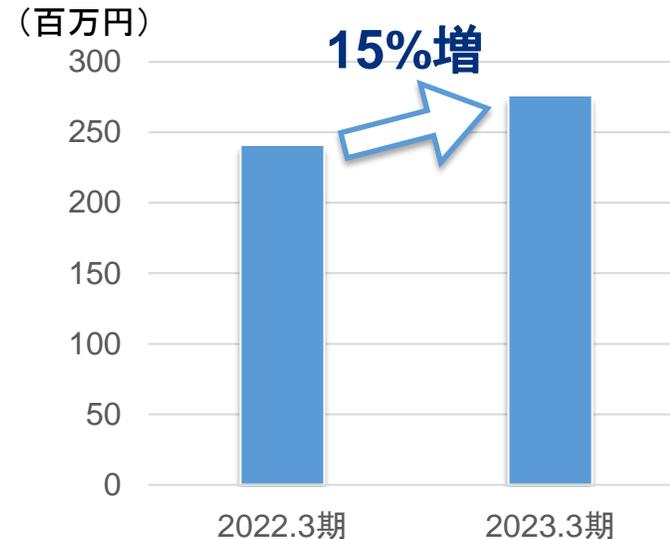
ユーザーニーズやシーズを捉えた製品やサービスの販売



Target事業③

SI事業コモディティ領域

維持/保守領域等のSI事業におけるマネージドサービスやアウトソーシングサービス



将来に向けた積極的な投資の推進

期初から堅調な事業運営状況を鑑み、将来の更なる事業拡大に向けた投資活動をより積極的に実施

● 技術投資の拡大

今後社会やビジネスに大きなインパクトをもたらす、SI事業に関連性の高い要素技術に対し、トップダウン型で全社投資を推進

2023年3月期 投資分野

- ・ アジャイル
- ・ セキュリティ
- ・ UXD
- ・ クラウドネイティブ
- ・ データアナリティクスプラットフォーム
- ・ **フロントエンドフレームワーク(新分野)**
- ・ **オートメーションマネージドサービス(新分野)**

● 人材への投資

前期から2倍の新卒採用数を確保するなど積極的な人材確保施策を推進。

また、教育投資やエンゲージメント向上や認知度向上を目的としたブランディング投資を推進するなど、多角的な投資施策を展開。





2024年3月期 見通しについて

ITコンサルティング&サービス分野



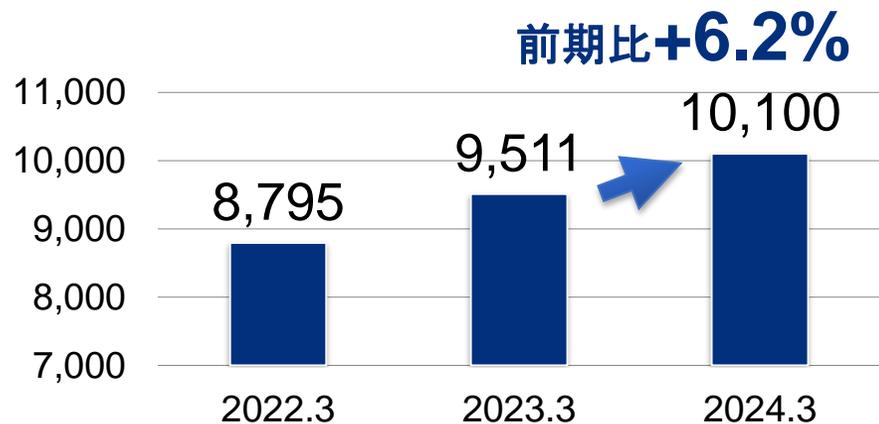
SaaS、iPaaS等のクラウド系エンタープライズソリューション案件の需要は継続し、拡大基調を維持する見込み。

金融ITソリューション分野



当期もクレジットや地銀系の大規模案件が継続、更なる領域の拡大に伴い、増収の見込み。

公共法人ITソリューション分野



引き続き運輸業・製造業向けで拡大見込み。
戦略パートナーとして顧客のIT企画から支援
していくビジネス拡大を図る

プラットフォームソリューション分野



継続するクラウドニーズにより事業は堅調に
拡大見込み

堅調な事業運営状況を鑑み、引き続き先端要素技術獲得や人材の確保・育成に関する投資を積極的に図りつつ、事業拡大に向けた増床等に取り組む

● 技術獲得の投資

アジャイル、セキュリティ、UXD、クラウドネイティブ、データアナリティクスプラットフォーム、フロントエンドフレームワーク、オートメーションマネージドサービス

● 人材への投資

- ・ 新卒採用者数の拡大（前期から+45名）
- ・ 積極的なキャリア採用数
- ・ エデュケーション施策の拡充
- ・ 人事制度再構築



● ワークプレイス戦略の推進

『Smart Work構想』の実現に向けた本社移転を計画

- ・ 多様な人材がより意欲的に仕事に取り組める環境作りの推進
- ・ 事業拡大に向けた増床



移転先：

東京都千代田区九段南1丁目6-5
九段会館テラス

賃借階数：4階、5階

移転日：2023年10月予定

業績予想および配当予想

(単位：百万円)	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	EPS (円)	配当予想 (円)
第2四半期 (累計)	17,730 (+5.6%)	1,580 (△14.7%)	1,650 (△14.2%)	1,100 (△15.5%)	46.15	—
通期	37,300 (+5.8%)	3,550 (+2.6%)	3,750 (+1.0%)	2,510 (+0.8%)	105.31	40.00

- 事業環境は引き続き堅調に推移する見込みであり、売上高は堅調に拡大する見込み
- 引き続き積極的な投資施策を推進。特に本社の移転コストは当期の特別要因として見込むも収益拡大効果から投資コストは通期で吸収し増収増益を予想
- 配当予想は、普通配当を10円増の一株あたり40円を実施させていただく予定



2023年3月期 決算内容

- 財務諸表
- 売上高分析
- 受注高・受注残高
- 営業利益分析

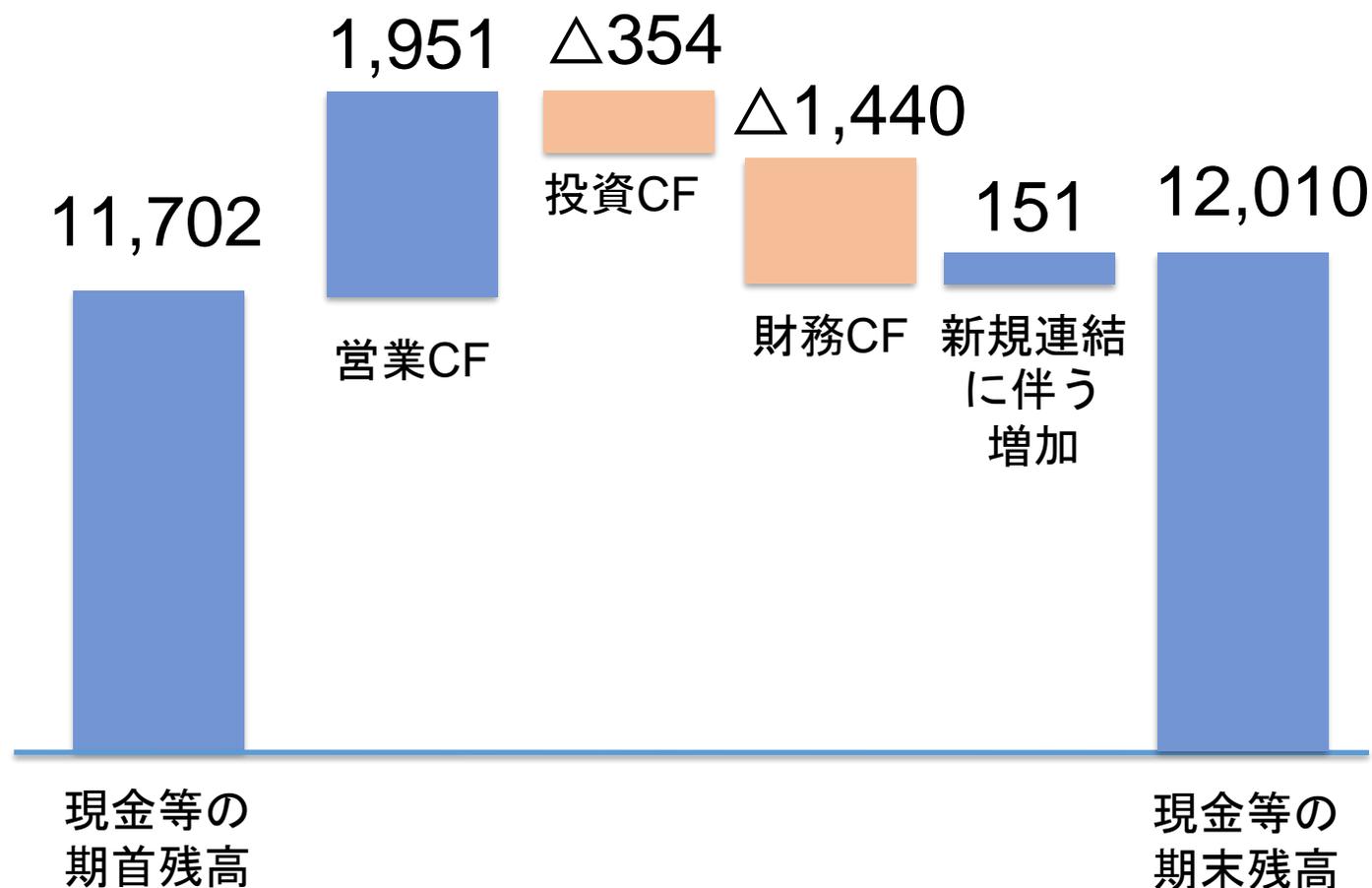
損益計算書

(単位：百万円)	2023年3月期	2022年3月期	増減率
売上高	35,242	30,925	+14.0%
労務費	12,364	11,725	+5.4%
外注費	14,501	11,909	+21.8%
その他経費	922	790	+16.7%
仕掛増減高	25	△75	+134.1%
売上原価	27,763	24,501	+13.3%
売上総利益	7,479	6,423	+16.4%
販売費及び一般管理費	4,020	3,456	+16.3%
営業利益	3,458	2,967	+16.6%
営業外収支	255	114	+122.4%
経常利益	3,714	3,082	+20.5%
税引前当期利益	3,714	3,082	+20.5%
当期純利益	2,490	2,069	+20.4%
EPS	104.33	85.82	+21.6%

貸借対照表

(単位：百万円)	2023年3月 期末	2022年3月 期末	増減率
資産合計	22,771	21,072	+8.1%
流動資産	18,827	17,368	+8.4%
固定資産	3,943	3,704	+6.5%
負債合計	6,361	5,817	+9.4%
流動負債	6,045	5,540	+9.1%
固定負債	316	276	+14.5%
純資産合計	16,409	15,255	+7.6%
負債純資産合計	22,771	21,072	+8.1%
自己資本比率	72.1%	72.4%	-
1株当たり純資産	653.43	632.64	+7.6%

キャッシュフロー計算書



現金等の期首残高	11,702
税引前当期純利益	3,714
売上債権及び契約資産の増加額	△ 814
仕入債務の増減額	231
未払費用の増減額	130
その他	△ 157
法人税等	△ 1,153
営業CF	1,951
投資有価証券の売却による収入	93
差入保証金の差入による支出	△ 515
利息及び配当金の受取額	71
その他	△ 3
投資CF	△ 354
短期借入金の純増減額	△ 26
自己株式の取得による支出	△ 304
配当金の支払額	△ 1,097
その他	△ 13
財務CF	△ 1,440
新規連結に伴う増加	151
現金等の期末残高	12,010

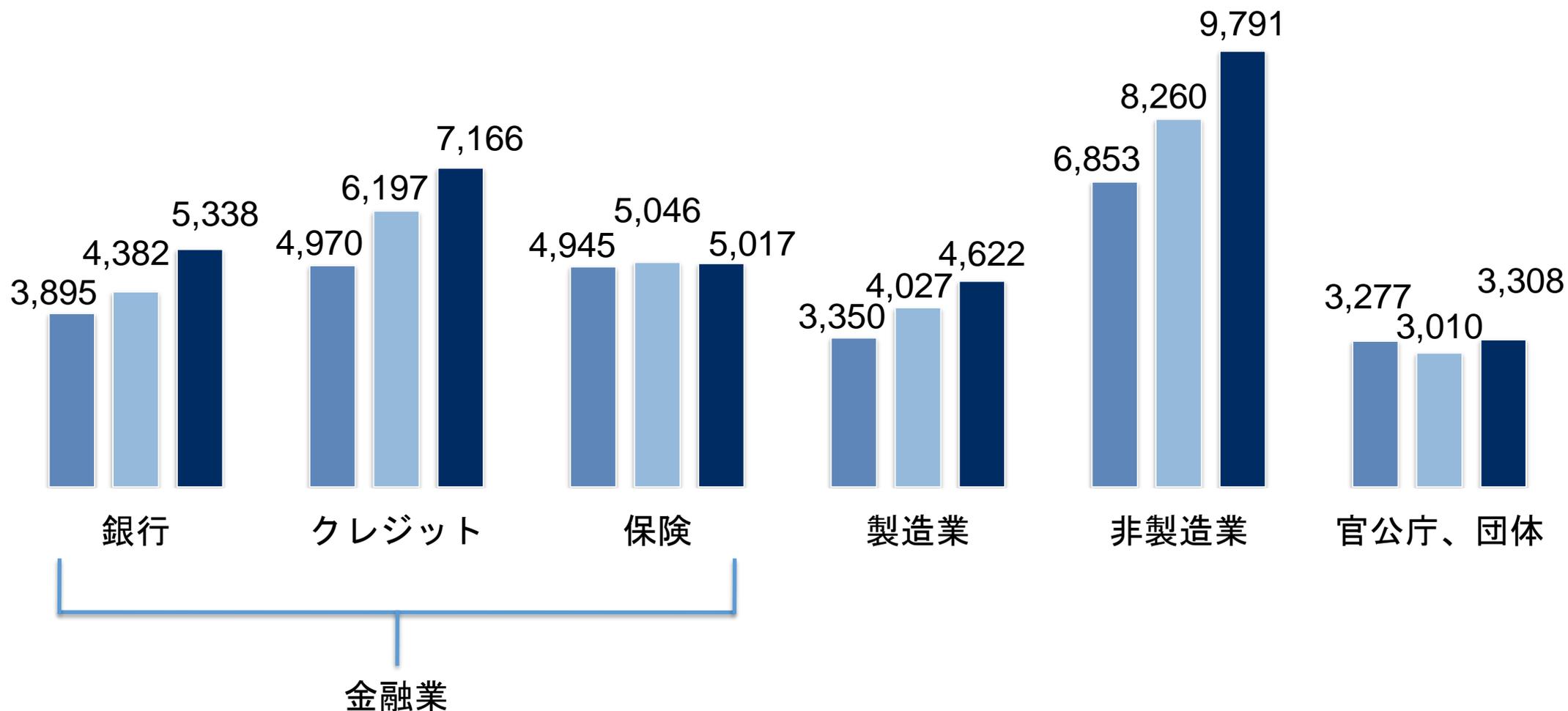
顧客業種別売上高概況

(百万円)

■ 2021年3月期

■ 2022年3月期

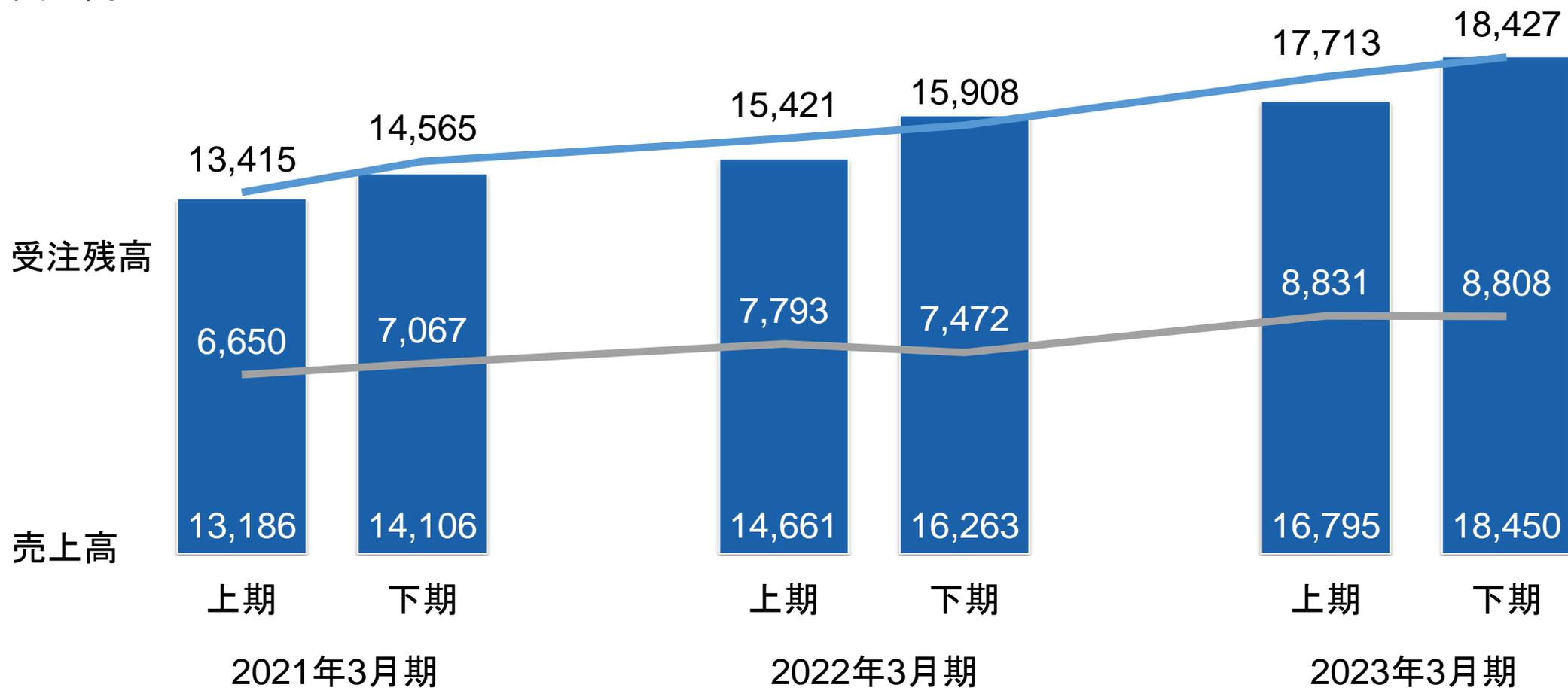
■ 2023年3月期



受注高・受注残高状況

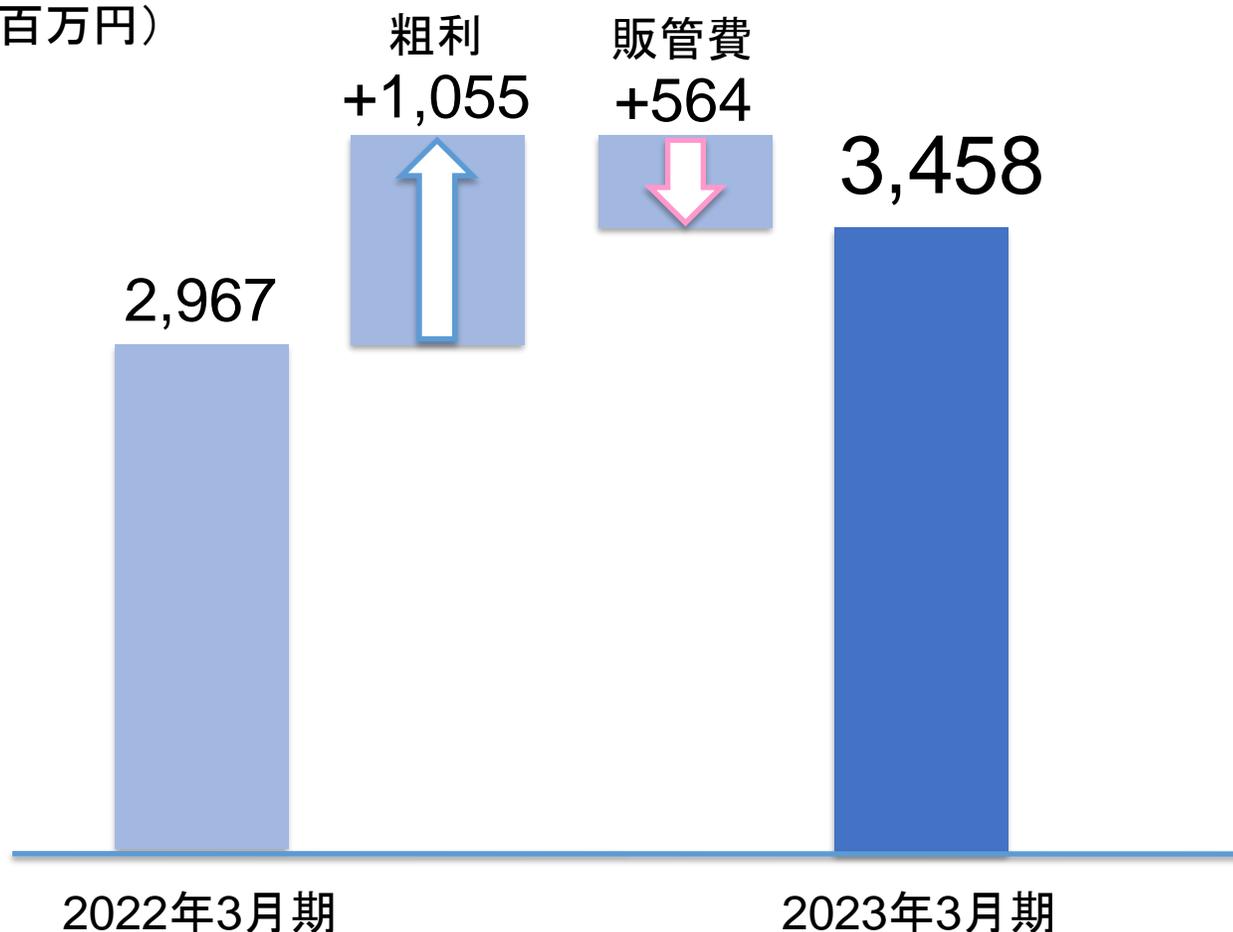
(百万円)

受注高



営業利益分析

(百万円)

**<粗利益>**

- + 売上高の増加による利益向上
- + 次世代型SI事業の事業構成比向上に伴う収益性向上

<販売管理費>

- + 事業領域拡大に向けた投資の実施
- + 人材への投資拡大
- + 本社移転に関する先行費用



※本資料についてのご注意：

本資料に記載されているTDCソフトグループの将来の予想に関する事項は、現時点における情報に基づき判断したものであり、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における状況変化等により変動することがあります。